

科目名	生活と経済 Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	基礎的な経済学を学ぶことにより、生活に関わる様々な経済の仕組みを理解できるようにすることを旨しつつ、経済問題について考察し、日常の選択について自ら考えることができるようになる。これにより学生が自身に社会に貢献することの意義を知り、また自らのライフ・イベントに付随する経済問題を理解しその対処を考え、より良い選択が行えるようになることを目的とする。「生活と経済」を学ぶことにより、社会に貢献する意義について理解し、また自らの選択を見直しつつ将来にわたる経済的な設計を考え、説明できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	<p>経済の問題と聞くと難しいと身構えてしまうことが多い。しかし、日々の生活において金銭を支払うことける支出を出費を行うこと、例えば「おやつ」を食べるかどうか、そしてどんな「おやつ」を食べるのかという問題も経済問題の一種である。また、自身が収入の獲得する様々な手法（働いて給与を得る、事業を経営する、あるいは配当金や家賃収入を得るなど）や、クレジットカードの利用・住宅ローンの選択なども経済の問題である。経済社会における価値の創造から自らの貯蓄の手法に至る、収入と支出に関わる問題への対処を学び、身近な話題から「経済」について理解する。</p> <p>【SDGs：①④⑧⑨】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① はじめに一オリエンテーション</li> <li>② 経済の指標の取り方</li> <li>③ 価値と市場について—GDPの基礎概念</li> <li>④ 生産活動と所得 — 「分け前」の獲得</li> <li>⑤ 誰がお金を使ったか？—消費と企業活動</li> <li>⑥ 市場の均衡と景気</li> <li>⑦ 資産とは何か—ポートフォリオ・セレクション</li> <li>⑧ お金の「価格」とは何か</li> <li>⑨ 消費者の満足とは—効用水準</li> <li>⑩ 自分にとっての価値（主観的価値と客観的価値）</li> <li>⑪ 何を買うのか？—消費の選択</li> <li>⑫ 満場一致が望ましい—パレートの意味での効率性</li> <li>⑬ 企業活動—利潤と費用</li> <li>⑭ クレジットカードの意味—支出と所得と時間の関係</li> <li>⑮ 異時点間の消費選択—住宅ローンに代表される借り入れの問題</li> <li>⑯ 定期試験—記述式</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。</p> <p>【復習】 表示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨むこと。		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する（プリント、簡略化したスライド資料）。		
参考書	講義中に適宜参考資料を紹介するが、購入を要するものではない。		

科目名	生活と福祉 Social Welfare	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	天池 洋介	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>・北欧デザインなど日本にある身近なものに興味・関心を持ち、主体性を持って北欧の文化とその背後にある福祉の考え方を幅広く学び、理解することができる。</p> <p>・福祉の現場における具体的なサービスと、それを支える社会政策を学び、福祉国家とはどのようなものかを、自分なりにイメージすることができる。</p> <p>・最終的に北欧の事例を理解することで、日本の現状を検討し、日本における問題の解決方法を、自分なりに考えることができる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関の生活・福祉電話相談員の経験あり】</p> <p>近年、スウェーデンのIKEA、フィンランドのMarimekko、デンマークのFlying Tiger Copenhagenなどの北欧デザインやその製品が注目されています。本講義はこのような北欧デザインや北欧の文化を通じて、北欧の豊かな生活と高い水準の福祉について学びます。</p> <p>また、世界の最先端と言われる福祉のシステムや経済、政治のあり方から、人々の生活と幸せを支援する国の姿＝福祉国家について実践的に学びます。最終的に北欧の姿を鏡にして、日本の現状と課題を考えます。</p> <p>本講義は実物や映像を見ながら、調べ学習や体験も交えて学ぶアクティブ・ラーニング型の講義です。自ら考え、学ぶことを楽しみ、積極的に参加することを期待しています。</p> <p>【SDGs：1, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本の中のスウェーデンを探す</li> <li>② 北欧デザインから幸せの支援を考える</li> <li>③ 映像で見る福祉国家の生活</li> <li>④ 誰もが安心して暮らせる普遍主義</li> <li>⑤ 福祉の先進地域・北欧5カ国を知る</li> <li>⑥ 英語と似ている北欧の言葉</li> <li>⑦ 本当の教育を考える</li> <li>⑧ 現場重視の福祉制度</li> <li>⑨ 家事や育児を分担する家庭と社会</li> <li>⑩ 話し合いで社会環境を変える精神科医療</li> <li>⑪ 世界でもっとも人道的な刑務制度</li> <li>⑫ 北欧を揺るがす移民問題</li> <li>⑬ 人を助ける経済のしくみ</li> <li>⑭ 社会をコントロールする政治の力</li> <li>⑮ 日本で幸せを支えるために</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	【予習】 授業終了時に、次回の予習となるような宿題を出します。		
評価方法	宿題・授業課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	その都度指示する		

科目名	課題創造演習 Problem Finding and Program Creating		
	単位数	1	
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）〔岐阜学関連科目〕	必選区分	選択
担当者	臼井 直之／鈴木 辰一	科目区分	演習
		教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本演習では、これまでの正しさの論理をぬぐい去り、分野の垣根を超えながら知識を共有し、それを発展的に展開していく能力を養う。具体的には、以下の3つを身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変化する社会に潜む課題の発見</li> <li>2. 分野を横断した議論の方法</li> <li>3. 正解の無い問いに対処する方法</li> </ol>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】          これまでは、与えられた課題を解決する力を備えた人材が重宝されてきた。そのため、解決策を学ぶことや、そのためのスキルを覚えることが、大切だと思われてきた。しかし、近年、社会情勢はこれまで以上の加速度で変化し、さらに多様化している。そのため、これまで正しいと思われてきた論理にて意思決定をしている、人々の幸福につながるケースが発生すると考えられる。本演習では、前半で議論・促進・抽出の方法を学んだのち、受講者によるグループワークやディスカッションを行い、正解の無い問いに対する対処方法および表現方法を学ぶ。</p> <p>【SDGs：11】  <b>【岐阜学関連の授業回：全授業】</b></p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 多様な社会課題</li> <li>③ 議論・促進・抽出の方法</li> <li>④ ディスカッション（課題抽出）</li> <li>⑤ 文献調査</li> <li>⑥ ディスカッション（課題抽出）</li> <li>⑦ ディスカッション（調査計画）</li> <li>⑧ 現地調査</li> <li>⑨ 現地調査</li> <li>⑩ 調査結果発表</li> <li>⑪ ディスカッション（表現方法）</li> <li>⑫ 制作（Adobe、パワーポイント）</li> <li>⑬ 制作（作業）</li> <li>⑭ 制作（作業）</li> <li>⑮ 成果発表</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】本演習の第一回目までに、参考書を一読しておくこと。          参考書にはマンガ版を示したが、同様のタイトルの新書版でも良い。</p> <p>【復習】授業の内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度50%、課題50%		
履修条件	集中講義であるため、開講時期に注意すること。現地調査など、学外へ移動することがある。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	『マンガと図解でわかる 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』/山口周 / 出版：光文社		

科目名	岐阜学入門 Gifu Studies		
	単位数	2	
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	必選区分	必修
担当者	オムニバス	科目区分	講義
		教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>【授業目的】          ・岐阜をフィールドにした学びを通して岐阜の歴史・文化・現状を知る。          ・岐阜地域の抱える様々な課題に関連する情報をリサーチし、考える。          ・リサーチと並行して課題を解決する能力を高め、仮説を提案する。</p> <p>【到達目標】          ・岐阜地域の歴史・文化・現状を理解し、自分の言葉で簡潔に説明することができる。          ・岐阜地域の課題を見つけ、課題解決に向けて情報収集することができる。          ・情報を整理し、問題と解決策の構造を把握し説明することができる。          ・岐阜市および岐阜地域の課題解決に向けた取り組み（仮説）を提言することができる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：授業計画の①、⑤、⑦、⑧、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮の各テーマについて現役または勤務経験のある学外講師が担当】          毎回異なる学内外の専門家が担当するオムニバス形式の講義を受講し、岐阜の「歴史・文化」と「現状」について学ぶ。実務経験者が担当する回は、最新の現状や現場の実体験をもとに授業を行う（開講順は変更する場合がある）。最終回には、受講した講義内容から各自が取り組みたいトピック（テーマ）を設定し、よりよい岐阜市および岐阜地域になるための提案書「岐阜市の未来社会を創造する」に取り組む。</p> <p>【SDGs：4, 5, 11】  <b>【岐阜学関連の授業回：全授業回】</b></p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス及びデザイン思考 【担当：副学長・岐阜大学 教員】</li> <li>② 岐阜と食文化① 【担当：健康栄養学科 教員】</li> <li>③ 岐阜と食文化② 【担当：健康栄養学科 教員】</li> <li>④ 岐阜と食文化③ 【担当：健康栄養学科 教員】</li> <li>⑤ 岐阜の農作物・畜産物 【担当：岐阜県農政部 農産物流通課】</li> <li>⑥ 岐阜の観光①（地域文化の活性化） 【担当：国際コミュニケーション学科 教員】</li> <li>⑦ 岐阜の観光②（岐阜のもてなし） 【岐阜市 魅力づくり推進部観光コンベンション課】</li> <li>⑧ 岐阜市における国際化の現状 【岐阜市 魅力づくり推進部 国際課】</li> <li>⑨ 岐阜の地域の産業と暮らし①（ファッション産業） 【担当：デザイン環境学科 教員】</li> <li>⑩ 岐阜の地域の産業と暮らし②（土育・木育） 【担当：デザイン環境学科 教員】</li> <li>⑪ 岐阜の地域の産業と暮らし③（アントレプレナーシップ） 【担当：武蔵野大学 アントレプレナーシップ 研究】</li> <li>⑫ 岐阜とジェンダー 【担当：岐阜県 健康福祉部 子ども・女性局 子ども家庭課】</li> <li>⑬ 岐阜市の公共交通について 【担当：岐阜市交通政策課】</li> <li>⑭ 岐阜における環境共生 【担当：岐阜市 環境部 環境保全課】</li> <li>⑮ 「世界農業遺産—清流長良川の鮎」と伝統漁法 【担当：学長・長良川漁業協同組合・岐阜県農政部里川振興課】</li> </ol> <p>（講義テーマの詳細は、ガイダンスまたは各講義で伝える）</p>		
予復習等	<p>【予習】各回のテーマについての概要や現状を調査しておくこと。          【復習】配布資料を読み、疑問点は調べて理解を深めること。期限内に課題を提出すること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度、各講義の課題提出、提案書等を総合評価する（詳細はガイダンスで伝える）。		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	参考資料は適宜配布する。		

科目名	生活と化学 Chemistry	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年後期）	科目区分	講義
担当者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>化学の基礎的な考え方や概念を理解する。具体的には、有効数字やSI単位について理解し、簡単な計算問題が解けるようになる。また、紫外線や食品の話題から、エネルギーの意味について考える。食品に含まれる代表的な有機化合物や無機化合物の構造や性質についても理解する。</p>		
授業概要	<p>日常生活の中で、私たちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかかわりがある。化学が普通の暮らしにどれだけ役立っているかを身のまわりにあるものを通して、わかりやすく解説してみたい。 たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解ができるように配慮し、なるべく身近な事例、たとえば、食品や生体に含まれる成分などを題材に取り上げ、生活と化学とのかかわりについて考えてみたい。 【SDGs：3,4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 元素と元素記号</li> <li>③ 物質の測定</li> <li>④ 紫外線①</li> <li>⑤ 紫外線②</li> <li>⑥ カロリー（エネルギー）</li> <li>⑦ ダイエット①</li> <li>⑧ ダイエット②</li> <li>⑨ ダイエット③</li> <li>⑩ 身のまわりの酸と塩基</li> <li>⑪ アルコール①</li> <li>⑫ アルコール②</li> <li>⑬ 食品中の有機化合物</li> <li>⑭ 食品中の無機化合物</li> <li>⑮ まとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】事前にテキストの該当する章をしっかりと読んでくる。 【復習】ノートに整理し、理解する。</p>		
評価方法	定期試験100%		
履修条件	なし。		
教科書	『わかる化学』／著：松井徳光ほか／出版：化学同人		
参考書	なし。		

科目名	心理学 Psychology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）	科目区分	講義
担当者	吉田 琢哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>身近な対人関係の問題を主な題材として、学生が心理学的な考え方やもの見方を身につけることを目標とする。具体的には、学生が以下の事柄について説明できるようになることを目的とする。 （1）心理学の成り立ち （2）人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働き （3）社会、教育および発達心理学の領域における人の心の捉え方</p>		
授業概要	<p>心理学は心の問題を中心的に扱う学問である。ただし、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心についての理解を深めることを目指す。具体的には、社会心理学・教育心理学・発達心理学の分野を中心的に学ぶ。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。 【SDGs：3,16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション・心理学とは</li> <li>② 他者を見る心</li> <li>③ 他者と比べる心</li> <li>④ 他者を好きになる心</li> <li>⑤ 親密な人間関係</li> <li>⑥ 他者から受ける影響</li> <li>⑦ 買い物の心理</li> <li>⑧ 人の発達</li> <li>⑨ コミュニケーションの技術</li> <li>⑩ 相手を説得する</li> <li>⑪ 他者との協力</li> <li>⑫ 記憶のメカニズム</li> <li>⑬ 学習のメカニズム</li> <li>⑭ 犯罪の心理（1）犯罪とは何か</li> <li>⑮ 犯罪の心理（2）身近な人への暴力</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】事前に資料を精読してくること。 【復習】講義内容を復習しながら小レポートに取り組むこと。</p>		
評価方法	授業中に課す小課題への取り組み30%、毎回のレポート課題70%（5点×14回）。小課題は6回の未提出で不可とする。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	ジェンダー論 Gender Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中島 美幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が「ジェンダー」について学び、以下の4点を獲得することを目標とする。</p> <p>①無意識の偏見に気付き、ジェンダーセンシティブな視点を持つことができる。</p> <p>②多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。</p> <p>③将来のライフデザインを、より明確に描くことができる。</p> <p>④生きる力を高め、社会に対し主体的に働きかけることができる。</p>		
授業概要	<p>多様な選択が可能になったといわれる現代であるが、「男は仕事/女は家事」「男は強く/女は優しく」など、社会は男女で異なる役割を期待し、また多くの人も、それを当たり前と思いついでいる。このように、社会や文化が作り出した性差をジェンダーと言う。</p> <p>この授業では、ジェンダーを作り出し、再生産している社会や文化の構造を明らかにするとともに、どのようにしたらジェンダーの縛りから自由になれるかを考える。</p> <p>そのために、過去の女性の生活や活動を知るとともに、現代の女性をとりまく様々な問題を考察する。そして、差別が解消された社会を展望する。</p> <p>【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 8, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 多様性とエンパワメント</li> <li>② 50年後の日本を見据えて</li> <li>③ 男女をめぐる国際比較</li> <li>④ 男女ともに働きやすい社会に</li> <li>⑤ 恋愛・結婚・家族とジェンダー</li> <li>⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ</li> <li>⑦ 母になる、父になる、ということ</li> <li>⑧ 性別分業の起源と歴史①世界</li> <li>⑨ 性別分業の起源と歴史②日本</li> <li>⑩ 女性解放運動の歴史～フェミニズム</li> <li>⑪ 作られる「女らしさ」「男らしさ」</li> <li>⑫ 「男らしさ」からの解放</li> <li>⑬ 暴力の根絶</li> <li>⑭ 日本の課題～法律・制度・慣習</li> <li>⑮ 平等な社会を求めて～世界と日本の今</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】新聞、雑誌、インターネットなどで、男女に関するテーマに関心を向けること。</p> <p>【復習】授業後に、確認テストに答え、小レポートを作成すること。</p>		
評価方法	毎回の、「確認テスト」(50%)と、「小レポート(授業の感想)」(50%)で評価する。		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし		

科目名	スポーツ&エクササイズ Sports and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際・デザイン（1年前期）／健康（1年後期）	科目区分	実技
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では、生涯にわたって運動に親しもうとする意識が養われることを目的とします。そのために重要なこととして、楽しむこと、どのような運動が自分に合うかを知ることが挙げられます。これらを達成するため、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しむ方は多様であることを認識する</li> <li>・楽しむためには参加者の様々な状況について相互理解と協力が重要であると認識する</li> <li>・どのような運動が自分の好み、体力特性、得手不得手などに合っているかを認識する</li> </ul>		
授業概要	<p>授業では、楽しむことを最も重視して進めていきます。受講者は運動能力や体力の高い人からそれほど得意でない人まで様々ですので、そのことを考慮した難易度設定や雰囲気作りを行います。受講者には、自分自身はもちろん周囲の人達も楽しめるように意識することを求めます。</p> <p>スポーツや運動は、用いられる技術やゲームの特性、必要となる体力特性などによって、カテゴリー分けをすることができます。この授業では、それらの特性を偏らせることなく、様々な種目をカテゴリー毎に実施します。特定の種目の技術や体力を高めるタイプの授業ではなく、体験型の授業とします。様々な種目を体験することにより、自分自身に合うスポーツや運動のタイプを認識できるようになることを目指します。具体的な実施種目は、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布してお知らせします。【SDGs：3】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 学内スポーツ施設体験(1)</li> <li>③ 学内スポーツ施設体験(2)</li> <li>④ チームスポーツ（攻守分離型）(1)</li> <li>⑤ チームスポーツ（攻守分離型）(2)</li> <li>⑥ ニューススポーツ(1)</li> <li>⑦ ニューススポーツ(2)</li> <li>⑧ チームスポーツ（攻守混合型）(1)</li> <li>⑨ チームスポーツ（攻守混合型）(2)</li> <li>⑩ チームスポーツ（攻守混合型）(3)</li> <li>⑪ 個人スポーツ（ネット対戦型）(1)</li> <li>⑫ 個人スポーツ（ネット対戦型）(2)</li> <li>⑬ レクリエーションスポーツ(1)</li> <li>⑭ レクリエーションスポーツ(2)</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】実施種目の基本的なルール等を確認しておいてください。</p> <p>【復習】メディア等で実施種目を視聴・観戦し、特性等を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況60%、授業態度40%		
履修条件	運動するのに適した服装をしてください。シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	健康とスポーツ Health Science and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康（1年前期）／国際・デザイン（1年後期）	科目区分	演習・講義
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>運動、栄養、休養は「健康の三本柱」と言われます。この授業では、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的とします。そのために、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動が身体の状態に与える影響を理解する</li> <li>・運動には多様な楽しみ方があることを認識する</li> <li>・自分に合う運動のタイプを認識する。</li> </ul>		
授業概要	<p>この授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせ実施されます。スポーツの実践では、楽しむことを重視します。運動能力や体力レベルが様々な人達が集まって行われますので、受講者には、自分自身はもちろんのこと周囲の人達も楽しめるよう意識することを求めます。スポーツ実践においては更に、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行います。</p> <p>講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学びます。</p> <p>第2～6回はクラス単位で隔週実施、初回および第7～10回は学科単位で毎週実施します。実施順や具体的なスポーツ種目については、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布して説明します。【SDGs：③】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 学内スポーツ施設体験</li> <li>③ チームスポーツ（攻守分離型）</li> <li>④ ニュースポーツ</li> <li>⑤ チームスポーツ（攻守混合型）</li> <li>⑥ 個人スポーツ（ネット対戦型）</li> <li>⑦ 講義「健康とは？運動しないとどうなる？」</li> <li>⑧ 講義「肥満と痩せとダイエット」</li> <li>⑨ 講義「身体活動量の目安、『健康』に関わる体力要素」</li> <li>⑩ 体力づくり実践</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】実施するスポーツ種目の基本的なルール等を確認しておいてください。</p> <p>【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況・態度60%、レポート40%		
履修条件	スポーツ実践の際には、運動するのに適した服装をしてください。シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報リテラシー（国際） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる</li> <li>・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる</li> <li>・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる</li> <li>・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる</li> </ul>		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威)とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基礎的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。</p> <p>【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① コンピュータの基本操作、タイピング、Teams・Zoom・Word</li> <li>② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理</li> <li>③ PowerPoint(1)基礎/演習</li> <li>④ PowerPoint(2)発表</li> <li>⑤ ITと社会、情報セキュリティ</li> <li>⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造</li> <li>⑦ コミュニケーションと情報デザイン</li> <li>⑧ ネットワークとインターネット</li> <li>⑨ コンピュータとプログラミング</li> <li>⑩ プログラミングとアルゴリズム</li> <li>⑪ Excel(1)データの種類の種類、収集、前処理</li> <li>⑫ Excel(2)データの可視化(1)</li> <li>⑬ Excel(3)データの可視化(2)</li> <li>⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1)</li> <li>⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2)</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。</p> <p>【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー（健康） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる</li> <li>コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる</li> <li>データを適切に収集し、データ分析を行うことができる</li> <li>データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる</li> </ul>		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用的手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① コンピュータの基本操作、タイピング、Teams・Zoom・Word</li> <li>② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理</li> <li>③ PowerPoint(1)基礎/演習</li> <li>④ PowerPoint(2)発表</li> <li>⑤ ITと社会、情報セキュリティ</li> <li>⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造</li> <li>⑦ コミュニケーションと情報デザイン</li> <li>⑧ ネットワークとインターネット</li> <li>⑨ コンピュータとプログラミング</li> <li>⑩ プログラミングとアルゴリズム</li> <li>⑪ Excel(1)データの種類、収集、前処理</li> <li>⑫ Excel(2)データの可視化(1)</li> <li>⑬ Excel(3)データの可視化(2)</li> <li>⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1)</li> <li>⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2)</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー（デザイン） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる</li> <li>コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる</li> <li>データを適切に収集し、データ分析を行うことができる</li> <li>データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる</li> </ul>		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用的手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① コンピュータの基本操作、タイピング、Teams・Zoom・Word</li> <li>② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理</li> <li>③ PowerPoint(1)基礎/演習</li> <li>④ PowerPoint(2)発表</li> <li>⑤ ITと社会、情報セキュリティ</li> <li>⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造</li> <li>⑦ コミュニケーションと情報デザイン</li> <li>⑧ ネットワークとインターネット</li> <li>⑨ コンピュータとプログラミング</li> <li>⑩ プログラミングとアルゴリズム</li> <li>⑪ Excel(1)データの種類、収集、前処理</li> <li>⑫ Excel(2)データの可視化(1)</li> <li>⑬ Excel(3)データの可視化(2)</li> <li>⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1)</li> <li>⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2)</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	データサイエンス概論 Introduction to Data Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	人工知能(AI)やデジタルトランスフォーメーション(DX)、データサイエンスは、我々の生活の中に入りつつあり、今後、必要不可欠なツールになる。今後の社会を生きていくためには、AIやDX、データサイエンスを正しく理解し、使えるようにする必要がある。そこで、本講義では、AIやDX、データサイエンスの概略とデータを扱う上で必要な知識を学ぶ。 本講義の到達目標は、現代社会におけるデータサイエンスの役割が説明できること、データ分析に関する基礎的な分析方法を身に着けること、そして、AIがどのような技術であるかを説明できること、である。		
授業概要	最初に、AIやDX、データサイエンスの出現によって起きた社会の変化やその重要性・必然性、国内外の科学技術政策について学ぶ。その後、AIやデータサイエンスのシステム、データ活用事例について学習する。次に、データやAIを取り扱ううえでの留意事項（データの収集方法やバイアスなど）・セキュリティについて学ぶ。ここでは、今後起こり得る社会的な問題についても学習する。続いて、実際のデータを用いて、データの読み方や分析手法について学ぶ。実際にデータを分析することで、学んだ知識の定着を行う。これによって、データリテラシーを身に着ける。最後に、AIやDX、データサイエンスの発展に伴う私たちの社会の変化と自分自身の将来について考えていく。 【SDGs：4,9】		
授業計画	① ガイダンス、社会で起きている変化口 ② データサイエンスの重要性・必然性 ③ データが変える社会 ④ データ活用のプロセス ⑤ データ・AIが何に使えるか ⑥ データ活用事例に学ぶ（海外、国内、岐阜） ⑦ AIとは何か？ ⑧ AIの技術 ⑨ データ・AIにおける留意事項とセキュリティ ⑩ データの読み方 ⑪ データの説明 ⑫ データを扱う(1) ⑬ データを扱う(2) ⑭ データサイエンスとこれからの働き方 ⑮ データサイエンスと私たちの未来 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。 【復習】学んだ内容について再度資料をよく読む。		
評価方法	授業内課題60%、定期試験40%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。資料をTeams上で配布する。		
参考書	なし。		

科目名	英語 I（国際Aクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。①比較的平易な英語での解説を聞き取れる、②正確な英文読解ができる、③自分の意見を英語で書いたり、発表できる、④海外事情を学び、理解する。		
授業概要	世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。英語で紹介される海外事情を聞き取り理解するとともに、各国の地元の人々のインタビューを通してWorld Englishesと呼ばれる特徴のある様々な英語にも触れる。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み、正確に内容把握する。さらに、学修した海外情報に対して自分の意見を英語で発表する。 定期試験の他、語彙、文法、リスニングなど小テストを行う。  【SDGs：4, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定された箇所を読み、問題を解いておく。 【復習】ダウンロード音声を使い、音声練習を行う。 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	『On Board for More World Adventures』/著：Scott Berlin他 /出版：金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（国際Bクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	尾野 理音	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。①比較的平易な英語での解説を聞き取れる、②正確な英文読解ができる、③自分の意見を英語で書いたり、発表できる、④海外事情を学び、理解する。		
授業概要	世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。英語で紹介される海外事情を聞き取り理解するとともに、各国の地元の人々のインタビューを通してWorld Englishesと呼ばれる特徴のある様々な英語にも触れる。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み、正確に内容把握する。さらに、学修した海外情報に対して自分の意見を英語で発表する。定期試験の他、語彙、文法、リスニングなど小テストを行う。  【SDGs : 4, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定された箇所を読み、問題を解いておく。 【復習】ダウンロード音声を使い、音声練習を行う。 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	『On Board for More World Adventures』/著：Scott Berlin他 /出版：金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（健康Aクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	尾野 理音	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。①比較的平易な英語での解説を聞き取れる、②正確な英文読解ができる、③自分の意見を英語で書いたり、発表できる、④海外事情を学び、理解する。		
授業概要	世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。英語で紹介される海外事情を聞き取り理解するとともに、各国の地元の人々のインタビューを通してWorld Englishesと呼ばれる特徴のある様々な英語にも触れる。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み、正確に内容把握する。さらに、学修した海外情報に対して自分の意見を英語で発表する。定期試験の他、語彙、文法、リスニングなど小テストを行う。  【SDGs : 4, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定された箇所を読み、問題を解いておく。 【復習】ダウンロード音声を使い、音声練習を行う。 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	『On Board for More World Adventures』/著：Scott Berlin他 /出版：金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（健康Bクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の目的は、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることを目的とする。具体的には英会話で頻出する基本的な表現の読み、書き、話し、書くことができることである。		
授業概要	英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは大学生活において遭遇する友人との会話を取り上げた『Global Activator』を使用する。このテキストの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを旨とする。 【SDGs：1, 2, 3】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Introduction Unit 1 College Life</li> <li>② Unit 2 Mobile Phones</li> <li>③ Unit 3 Movies</li> <li>④ Unit 4 Dating</li> <li>⑤ Unit 5 International Food</li> <li>⑥ Unit 6 World Englishes</li> <li>⑦ Unit 7 Weekdays/Vacations</li> <li>⑧ Review</li> <li>⑨ Unit 8 Music/Songs</li> <li>⑩ Unit 9 Sports</li> <li>⑪ Unit 10 Shopping</li> <li>⑫ Unit 11 Traveling/Studying Overseas</li> <li>⑬ Unit 12 Festivals/Parties</li> <li>⑭ Unit 13 Part-time/Future Jobs</li> <li>⑮ Review</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。【復習】会話、聞き取り問題や読解問題の復習をすること。		
評価方法	授業参加度、貢献度、発表、小テストその他 50%。定期試験（会話発表を含む）50%。		
履修条件	学習規定による。（「授業の3分の1を越えて欠席した学生は評価の対象にならない」）		
教科書	『Global Activator』／著：塩沢正／出版：金星堂		
参考書	授業中に指示する。		

科目名	英語Ⅰ（デザインAクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	松家 結美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語のリスニング・スピーキングを中心としたスキルを磨き、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、海外の文化について理解を深めると共に、世界中の、英語を母語としない人々のコミュニケーションについて触れ、英語発信の重要性について学ぶ。身近な話題や興味のある分野について、英語で発信することを目的とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：①航空会社における、国際線の乗務。②米国テレビ局での勤務。】 教科書を用いながら、Unit毎のテーマを理解し、英語の基礎的な力を身に付ける。リスニングについては、英語の強弱やリズムについて理解をする。また、ディクテーションやシャドーイングに挑戦することで、内容理解の正確性を高めることを目指す。スピーキングについては、パターンプラクティスから英語表現力を身に付け、ペア・グループワークを通し、学んだ表現を使えるよう実践する。 【SDGs：4, 16, 17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス, Unit 1 Graduation just Around the Corner</li> <li>② Unit 2 Smiling Faces</li> <li>③ Unit 3 Farewell to Friends</li> <li>④ Unit 4 Japanese as a Communication Tool</li> <li>⑤ Unit 5 Pursuing a Dream in Southeast Asia</li> <li>⑥ Unit 6 Sports Journalism in the US</li> <li>⑦ Unit 7 Feeling Homesick</li> <li>⑧ Unit 8 More Chinese Students Studying Abroad</li> <li>⑨ Unit 9 Tapping New Resources</li> <li>⑩ Unit 10 Becoming a Filmmaker</li> <li>⑪ Unit 11 A Helicopter Pilot</li> <li>⑫ Unit 12 Bicycling Anyone</li> <li>⑬ Unit 13 Helping Immigrants Learn German</li> <li>⑭ Unit 14 A Young and Ambitious Reporter</li> <li>⑮ Unit 15 Off to New York</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	[予習]各Unitを読み、分からない単語を調べる。授業の事前課題を行う。 [復習]教科書付属のCDを聞きながら、英文を音読する。		
評価方法	履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『Let's Talk with Friends Around the World! 世界の友と英語で話そう』著：行時潔 他 ／出版：松柏社		
参考書	授業中に、適時指示をする。		

科目名	英語Ⅰ (デザインクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の目的は、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることを目的とする。具体的には英会話で頻出する基本的な表現の読み、書き、話し、書くことができることである。		
授業概要	英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは大学生活において遭遇する友人との会話を取り上げた『Global Activator』を使用する。このテキストの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを旨とする。 【SDGs : 1, 2, 3】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Introduction Unit 1 College Life</li> <li>② Unit 2 Mobile Phones</li> <li>③ Unit 3 Movies</li> <li>④ Unit 4 Dating</li> <li>⑤ Unit 5 International Food</li> <li>⑥ Unit 6 World Englishes</li> <li>⑦ Unit 7 Weekdays/Vacations</li> <li>⑧ Review</li> <li>⑨ Unit 8 Music/Songs</li> <li>⑩ Unit 9 Sports</li> <li>⑪ Unit 10 Shopping</li> <li>⑫ Unit 11 Traveling/Studying Overseas</li> <li>⑬ Unit 12 Festivals/Parties</li> <li>⑭ Unit 13 Part-time/Future Jobs</li> <li>⑮ Review</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。【復習】会話、聞き取り問題や読解問題の復習をすること。		
評価方法	授業参加度、貢献度、発表、小テストその他 50%。定期試験（会話発表を含む）50%。		
履修条件	学習規定による。（「授業の3分の1を越えて欠席した学生は評価の対象にならない」）		
教科書	『Global Activator』／著：塩沢正／出版：金星堂		
参考書	授業中に指示する。		

科目名	英語Ⅱ (国際英語領域) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語のリーディング力やリスニング能力を伸ばし、さらに英語で場면을要約する力や自分の考えを発表できる力を付けることを目的とする。到達目標は、1) 映画で使用される自然な英語を聞いて概ね理解することができる、2) テーマと関連する基礎的な英文を読み、理解することができる、3) 映画でよく使用される自然な表現を使って、コミュニケーションができる、4) 英語で自分の考えを表現できる、の4点である。		
授業概要	ビデオ・音声教材を使用し、アメリカの社会問題を扱った映画を題材に、英語のリーディング力やリスニング力を伸ばすとともに、英語の表現力を高める。また、語彙や文法力も高め、音読やシャドーイング練習にも力を入れる。映画の場면을ペアで練習することで、英語のリズムを身に付ける。アメリカ社会に対する理解を深めるとともに、自国の社会についても再認識し、英語で場面要約する力や自分の考えを表現できる力を付ける。期末試験に加え、語彙や文法の小テストを行う。また、授業外多読課題を課す。 【SDGs : 3, 4, 5, 6, 11, 12, 15】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② Unit 2: Job Hunting (Reading)</li> <li>③ Unit 3: Job Hunting (Audio-Visual Learning)</li> <li>④ Unit 4: Discovery (Reading)</li> <li>⑤ Unit 5: Discovery (Audio-Visual Learning)</li> <li>⑥ Unit 6: Getting Ready for the Suit (Reading)</li> <li>⑦ Unit 7: Getting Ready for the Suit (Audio-Visual Learning)</li> <li>⑧ Review</li> <li>⑨ Unit 8: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading)</li> <li>⑩ Unit 9: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning)</li> <li>⑪ Unit 10: Binding Arbitration (Reading)</li> <li>⑫ Unit 11: Binding Arbitration (Audio-Visual Learning)</li> <li>⑬ Unit 12: Settlement (Reading)</li> <li>⑭ Unit 13: Settlement (Audio-Visual Learning)</li> <li>⑮ Unit 14: The Real Erin (Extra Reading)</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	【予習】各UnitのVocabulary Check, Vocabulary in Use, Sound Focus 【復習】リーディング、リスニング教材の復習、音読、シャドーイング		
評価方法	出席状況・授業態度 20%、小テスト20%、多読課題20%、期末試験40%		
履修条件	なし		
教科書	English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich /井村誠 他/金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅱ（国際 英語領域以外） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	尾野 理音	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、総合的な英語運用能力の向上を目的とする。特に、基礎的な文法事項の定着と、英文読解を通じた語彙力の拡充を目指す。そのために、英語の基本的な思考や文の仕組みを学び、英文の読解を繰り返し行う。		
授業概要	Grammar Section と Reading Section に別れた教材を使用し、授業の各回で文法事項を学習した上で、英文読解を行う。文法学習では、新たに学習する内容の解説を聞いたあと、問題で確認を行う。英文読解では、新出の重要な語彙に注意しながら様々な英語に触れる。全体を通して、総合的な英語運用にとって重要な能力の向上を目指す。  【SDGs : 4, 16, 17】		
授業計画	① Grammar Section Unit 1 と Reading Section Unit 1 ② Grammar Section Unit 2 と Reading Section Unit 2 ③ Grammar Section Unit 3 と Reading Section Unit 3 ④ Grammar Section Unit 4 と Reading Section Unit 4 ⑤ Grammar Section Unit 5 と Reading Section Unit 5 ⑥ Grammar Section Unit 6 と Reading Section Unit 6 ⑦ Review (各Section Unit 1-6) ⑧ Grammar Section Unit 7 と Reading Section Unit 7 ⑨ Grammar Section Unit 8 と Reading Section Unit 8 ⑩ Grammar Section Unit 9 と Reading Section Unit 9 ⑪ Grammar Section Unit 10 と Reading Section Unit 10 ⑫ Grammar Section Unit 11 と Reading Section Unit 11 ⑬ Grammar Section Unit 12 と Reading Section Unit 12 ⑭ Grammar Section Unit 13 と Reading Section Unit 13 ⑮ Review (各Section Unit 7-13) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定された箇所を読み、問題を解いておく。 【復習】 授業後に、学習した文法事項や重要語句が定着するように復習する		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度など）20%、小テスト30%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『Dear Class - Drop Everything And Read <Second Edition> 楽しい英語の世界へようこそ【改定新版】』/ 著：永本義弘・町田純子・八木茂那子・霜田敦子・Ian E. Ellsworth / 出版：南雲堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅱ（健康A775） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、所属する学科の専門教育に関連した英文に取り組むことを通して、より高度な英文読解力および英文聴解力を養成することである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ボキャブラリーの拡充をもち、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、リスニング問題に取り組むことで聴解力を磨き、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。その後、テーマに即した英文エッセイの朗読を聞く。リーディング演習では、英語の構造および重要な箇所、難解な箇所を理解し、文脈に合った正しい解釈ができるような読解力を身につける。内容把握に関する練習問題に取り組む。重要な語句について学習し、専門的な語彙力をも強化する。  【SDGs : 1, 2, 3】		
授業計画	① Introduction : 授業説明、Unit 1 : Energy-Providing Nutrients ② Unit 2 : Nutrition Science: A Brief History ③ Unit 3 : Staple Foods ④ Unit 4 : The Cultural Heritage of Food ⑤ Unit 5 : The Art of the Bento Box ⑥ Unit 6 : Kyushoku: The Japanese School Lunch ⑦ Unit 7 : Kodomo Shokudo ⑧ Review ⑨ Unit 8 : Can Food be super ? ⑩ Unit 9 : Halal Food ⑪ Unit 10 : How We Taste ⑫ Unit 11 : Airline Food ⑬ Unit 12 : Sugar: What You Need to Know ⑭ Unit 13 : Sugar Tax ⑮ Unit 14 : Antioxidants ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】 テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】 試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、小テスト、課題など）50%、定期試験50%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	『A Matter of Taste <Intro>』／著：津田晶子／出版：南雲堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ（健康Bクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、所属する学科の専門教育に関連した英文に取り組むことを通して、より高度な英文読解力および英文聴解力を養成することである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ポキャブラリーの拡充をはかり、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、リスニング問題に取り組むことで聴解力を磨き、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。その後、テーマに即した英文エッセイの朗読を聞く。リーディング演習では、英語の構造および重要な箇所、難解な箇所を理解し、文脈に合った正しい解釈ができるような読解力を身につける。内容把握に関する練習問題に取り組む。重要な語句について学習し、専門的な語彙力をも強化する。 【SDGs : 1, 2, 3】		
授業計画	① Introduction : 授業説明、Unit 1 : Energy-Providing Nutrients ② Unit 2 : Nutrition Science: A Brief History ③ Unit 3 : Staple Foods ④ Unit 4 : The Cultural Heritage of Food ⑤ Unit 5 : The Art of the Bento Box ⑥ Unit 6 : Kyushoku: The Japanese School Lunch ⑦ Unit 7 : Kodomo Shokudo ⑧ Review ⑨ Unit 8 : Can Food be super ? ⑩ Unit 9 : Halal Food ⑪ Unit 10 : How We Taste ⑫ Unit 11 : Airline Food ⑬ Unit 12 : Sugar: What You Need to Know ⑭ Unit 13 : Sugar Tax ⑮ Unit 14 : Antioxidants ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、小テスト、課題など）50%、定期試験50%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	『A Matter of Taste <Intro>』／著：津田晶子／出版：南雲堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ（デザインAクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語のリーディング力やリスニング能力を伸ばし、さらに英語で場面を要約する力や自分の考えを発表できる力を付けることを目的とする。到達目標は、1) 映画で使用される自然な英語を聞いて概ね理解することができる、2) テーマと関連する基礎的な英文を読み、理解することができる、3) 映画でよく使用される自然な表現を使って、コミュニケーションができる、4) 英語で自分の考えを表現できる、の4点である。		
授業概要	ビデオ・音声教材を使用し、アメリカの社会問題を扱った映画を題材に、英語のリーディング力やリスニング力を伸ばすとともに、英語の表現力を高める。また、語彙や文法力も高め、音読やシャドーイング練習にも力を入れる。映画の場面をペーパーで練習することで、英語のリズムを身に付ける。アメリカ社会に対する理解を深めるとともに、自国の社会についても再認識し、英語で場面要約する力や自分の考えを表現できる力を付ける。期末試験に加え、語彙や文法の小テストを行う。  【SDGs : 3, 4, 5, 6, 11, 12, 15】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 2: Job Hunting (Reading) ③ Unit 3: Job Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4: Discovery (Reading) ⑤ Unit 5: Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6: Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7: Getting Ready for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Unit 8: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑨ Unit 9: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑩ Unit 10: Binding Arbitration (Reading) ⑪ Unit 11: Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑫ Unit 12: Settlement (Reading) ⑬ Unit 13: Settlement (Audio-Visual Learning) ⑭ Unit 14: The Real Erin (Extra Reading) ⑮ Review ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】各UnitのVocabulary Check, Vocabulary in Use 【復習】リーディング、リスニング教材の復習、音読、シャドーイング		
評価方法	出席状況・授業態度 20%、小テスト20%、期末試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich』 Kinseido		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅱ (デザインクラス) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語のリーディング力やリスニング能力を伸ばし、さらに英語で場面を要約する力や自分の考えを發表できる力を付けることを目的とする。到達目標は、1) 映画で使用される自然な英語を聞いて概ね理解することができる、2) テーマと関連する基礎的な英文を読み、理解することができる、3) 映画でよく使用される自然な表現を使って、コミュニケーションができる、4) 英語で自分の考えを表現できる、の4点である。		
授業概要	ビデオ・音声教材を使用し、アメリカの社会問題を扱った映画を題材に、英語のリーディング力やリスニング力を伸ばすとともに、英語の表現力を高める。また、語彙や文法力も高め、音読やシャドーイング練習にも力を入れる。映画の場面をペアで練習することで、英語のリズムを身に付ける。アメリカ社会に対する理解を深めるとともに、自国の社会についても再認識し、英語で場面要約する力や自分の考えを表現できる力を付ける。期末試験に加え、語彙や文法の小テストを行う。  【SDGs : 3, 4, 5, 6, 11, 12, 15】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 2: Job Hunting (Reading) ③ Unit 3: Job Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4: Discovery (Reading) ⑤ Unit 5: Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6: Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7: Getting Ready for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Unit 8: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑨ Unit 9: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑩ Unit 10: Binding Arbitration (Reading) ⑪ Unit 11: Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑫ Unit 12: Settlement (Reading) ⑬ Unit 13: Settlement (Audio-Visual Learning) ⑭ Unit 14: The Real Erin (Extra Reading) ⑮ Review ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】各UnitのVocabulary Check, Vocabulary in Use 【復習】リーディング、リスニング教材の復習、音読、シャドーイング		
評価方法	出席状況・授業態度 20%、小テスト20%、期末試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich』 Kinseido		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅲ [国際] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (2年前期)	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Students will build on the basic conversation skills learned in the first year. The objective of this course is to further develop language skills and enable students to speak for longer periods in English. This will be achieved through adding to vocabulary learned, improving listening comprehension and giving students opportunities to express themselves in English.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 In this course students will have the opportunity to listen to longer recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre- taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work. 【SDGs : 4】		
授業計画	① Orientation. ② Unit 1: Memories ③ Unit 2: Life changes ④ Unit 3: Viewpoints ⑤ Unit 4: Problems ⑥ Unit 5: Thinking Ahead ⑦ Unit 6: Imagine! ⑧ Speaking assessment 1. Review of Units 1-6. ⑨ Unit 7: My world ⑩ Unit 8: Past events ⑪ Unit 9: Feelings and opinions ⑫ Unit 10: What if...? ⑬ Unit 11: Work it out ⑭ Unit 12: Looking back ⑮ Speaking Assessment 2. Review of all units. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. End of term speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Breakthrough Plus Book 3. Macmillan Education. Miles Craven.		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅲ [健康・デザイン] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康・デザイン (2年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションや外国に行く時における様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。以上のことを個人およびペアやグループディスカッション、さらにプレゼンテーションを通して行う。  【SDGs:10, 16, 17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① イン트로ダクション</li> <li>② Unit 1 Travel</li> <li>③ Unit 2 Jobs and People</li> <li>④ Unit 3 Getting on the plane</li> <li>⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs</li> <li>⑥ Unit 5 At the Airport</li> <li>⑦ Unit 6 Hotel</li> <li>⑧ Unit 7 Restaurant</li> <li>⑨ Unit 8 Sightseeing</li> <li>⑩ Unit 9 Shopping</li> <li>⑪ Unit 10 Transportation</li> <li>⑫ Unit 11 Problems and Compliments</li> <li>⑬ Traveling in Japan (1)</li> <li>⑭ Traveling in Japan (2)</li> <li>⑮ Traveling in Japan (3)</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。 【復習】授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること。		
評価方法	平常点 (授業参加度、貢献度、発表、小テストその他) 50%、定期試験50%。		
履修条件	学修規程による。(授業の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象とならない)		
教科書	『ENGLISH for Tourism <Basic>』 / 著: 観光英検センター / 出版: 三修社		
参考書	英語辞書必携		

科目名	英語Ⅳ [国際] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (2年後期)	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Students will build on the basic conversation skills learned in the first year. The objective of this course is to further develop language skills and enable students to speak for longer periods in English. This will be achieved through adding to vocabulary learned, improving listening comprehension and giving students opportunities to express themselves in English.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 In this course students will have the opportunity to listen to longer recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre-taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work. 【SDGs : 4】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Orientation</li> <li>② Unit 1: Success</li> <li>③ Unit 2: Difficult decisions</li> <li>④ Unit 3: Keeping busy</li> <li>⑤ Unit 4: He said what?</li> <li>⑥ Unit 5: Changes</li> <li>⑦ Unit 6: You can't do that!</li> <li>⑧ Speaking Assessment 1. Review Units 1-6.</li> <li>⑨ Unit 7: Influences</li> <li>⑩ Unit 8: If I hadn't</li> <li>⑪ Unit 9: Past regrets</li> <li>⑫ Unit 10: Looking ahead</li> <li>⑬ Unit 11: It's a hard life</li> <li>⑭ Unit 12: Women and men</li> <li>⑮ Speaking Assessment 2. Review all units.</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. End of term speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Breakthrough Plus Book 4. Macmillan Education. Miles Craven.		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅳ [健康・デザイン] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康・デザイン（2年後期）	科目区分	演習
担当者	尾野 理音	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、総合的な英語運用能力の向上を目的とする。特に、基礎的な文法事項の定着と、英文読解を通じた語彙力の拡充を目指す。そのために、英語の基本的な思考や文の仕組みを学び、英文の読解を繰り返す行う。		
授業概要	Grammar Section と Reading Section に別れた教材を使用し、授業の各回で文法事項を学習した上で、英文読解を行う。文法学習では、新たに学習する内容の解説を聞いたあと、問題で確認を行う。英文読解では、新出の重要な語彙に注意しながら様々な英語に触れる。全体を通して、総合的な英語運用にとって重要な能力の向上を目指す。 【SDGs : 4, 16, 17】		
授業計画	① Grammar Section Unit 1 と Reading Section Unit 1 ② Grammar Section Unit 2 と Reading Section Unit 2 ③ Grammar Section Unit 3 と Reading Section Unit 3 ④ Grammar Section Unit 4 と Reading Section Unit 4 ⑤ Grammar Section Unit 5 と Reading Section Unit 5 ⑥ Grammar Section Unit 6 と Reading Section Unit 6 ⑦ Review (各Section Unit 1-6) ⑧ Grammar Section Unit 7 と Reading Section Unit 7 ⑨ Grammar Section Unit 8 と Reading Section Unit 8 ⑩ Grammar Section Unit 9 と Reading Section Unit 9 ⑪ Grammar Section Unit 10 と Reading Section Unit 10 ⑫ Grammar Section Unit 11 と Reading Section Unit 11 ⑬ Grammar Section Unit 12 と Reading Section Unit 12 ⑭ Grammar Section Unit 13 と Reading Section Unit 13 ⑮ Review (各Section Unit 7-13) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定された箇所を読み、問題を解いておく。 【復習】 授業後に、学習した文法事項や重要語句が定着するように復習する		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度など）20%、小テスト30%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『Dear Class 楽しい英語の世界へようこそ』/ 著：永本義弘・町田純子・八木茂那子・Ian E. Ellsworth / 出版：南雲堂		
参考書	なし		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	大学生生活をスタートさせるにあたり、主体的な学修に必要な学びの技術と表現の技術を身につけることを目的とする。本演習では演習課題を行いながら、ノートの取り方、口頭発表の仕方、文献検索、レポートの書き方、小論文の書き方などの基本的なスキルを身につけ、大学生に相応しい表現ができることを目標とする。		
授業概要	大学生に必要な学びの技術と表現の技術を身につけるため、テキスト付属のトレーニングシートを使い、毎回テーマに応じた演習課題を行う。演習課題は担当教員がきめ細かく指導する。テキストでは主体的学修と的確な表現能力の向上を目指し、ノートの取り方、文献調査方法、資料の読み方を学修し、口頭発表を行ったり、レポートや小論文を仕上げる。テキスト課題の他、学外研修として岐阜市内見学を行い、事前調査・見学・グループ発表を実践的な演習として体験する。 【SDGs : 4,17】 【岐阜学関連の授業回 : ⑦⑧⑨】		
授業計画	① 授業ガイダンス・自己紹介 ② 図書館ガイダンス ③ 大学でのノートの取り方 ④ メールの書き方 ⑤ 説明のコツ ⑥ 効果的なプレゼンテーション ⑦ 学外研修 事前調査 ⑧ 学外研修 岐阜市内見学 ⑨ 発表 ⑩ 大学生の調べ方1 ⑪ 大学生の調べ方2 ⑫ 資料の読み方 ⑬ 堅実なレポートの書き方1 ⑭ 堅実なレポートの書き方2 ⑮ 小論文の書き方		
予復習等	【予習】 担当教員が指示する。 【復習】 担当教員が指示する。		
評価方法	出席・態度:40%、発表:30%、小論文:30%		
履修条件	なし		
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』 編著：橋本修他 / 出版：三省堂		
参考書	担当教員が授業で指示する。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小野 廣紀・松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習を通して、大学における学びの技法を修得する。また、少人数のグループ学習の中で、将来、栄養士を目指して、「大学で何を学ぶべきか?」「社会でどのように役立ちたいか?」「そのための必要な学び・スキルとは何か?」について、自ら考え、目標が立てられるようになる。すなわち、高校生までの受け身の学修姿勢から自発的な学修姿勢への変換を目指す。</p>		
授業概要	<p>大学生として身につけるべき基礎的技能を習得する。具体的には、ノートの取り方、講義の受け方、情報収集（文献・資料の検索方法）、スライドを使ったプレゼンテーションの基礎、レポートの作成方法などを10名程度のグループ学習の中で学ぶ。また、グループワークの中で、コミュニケーション能力や総合的な判断力の養成を行う。健康栄養学科では、特に「食」を学ぶ意義や「食」に係わる者の倫理に重点を置いた取り上げ方をする。 【SDGs：3, 4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 学生の学習技術：ノートの取り方、講義の受け方</li> <li>③ 学生の学習技術：予習・復習、図書館の使い方</li> <li>④ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(1)</li> <li>⑤ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(2)</li> <li>⑥ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(3)</li> <li>⑦ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(4)</li> <li>⑧ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(5)</li> <li>⑨ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(6)</li> <li>⑩ 演習Ⅰ：口頭発表</li> <li>⑪ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(1)</li> <li>⑫ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(2)</li> <li>⑬ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(3)</li> <li>⑭ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(4)</li> <li>⑮ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(5)</li> <li>⑯ レポート・論文提出</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】配布資料がある場合、再読し、理解する。</p>		
評価方法	出席状況25%、授業態度25%、発表25%、レポート・論文など提出物25%		
履修条件	なし。		
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』／著：西川真理子／出版：化学同人		
参考書	各担当教員がテーマに応じて適宜紹介する。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得することを目的とする。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得することを目標とする。</p>		
授業概要	<p>テキストに添って、「講義ノートをとる力」、「テキストを読む力」、「文献を調べる力」、「レポートを書く力」、「レポートをまとめる力」の順に進めていく。大学の講義においては、レポート課題が多く出されることから、「レポートを書く力」を習得することが特に重要となる。また、その事前の準備として文献調査が必ず必要となり、図書館の利用方法も理解し十分に活用してもらいたい。なお、各講義においては、パワーポイントを用いて、簡潔に理解できるよう工夫している。 【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 大学とは何か・本学の設立趣旨と本学科の教育目標</li> <li>② 講義ノートをとる力の習得</li> <li>③ テキストを読む力の習得</li> <li>④ 文献を調べる力の習得</li> <li>⑤ レポートを書く力の習得</li> <li>⑥ レポートをまとめる力の習得</li> <li>⑦ 成果を伝える力の習得</li> <li>⑧ 学外研修</li> <li>⑨ 学外研修</li> <li>⑩ 学外研修</li> <li>⑪ 学外研修</li> <li>⑫ 特別講義（1回目）</li> <li>⑬ 特別講義（2回目）</li> <li>⑭ 卒業研究中間発表会</li> <li>⑮ 卒業研究中間発表会</li> <li>⑯</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】教科書をあらかじめ見ておくこと。 【復習】学んだことを他の講義等で実行すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	学外研修参加（レポート提出）、特別講義参加、卒業研究中間発表会参加		
教科書	くろしお出版 学習技術研究会編著 「知へのステップ 第5版」		
参考書	なし		

科目名	異文化理解と社会の変化 Intercultural Understanding and Social Shift	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之・長谷川 旭・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化とは国際だけではなく、文化や言語、地域差といった様々な背景の違いを指している。生成AI（人工知能）など時代の変化が激しい現代において、社会も多様化・複雑化している。そのため、異文化を学んだり、視野を広げたり、他者の視点に立脚して考えることは重要となる。そこで、本講義では、文化や価値観の違いに触れながら、これからの時代に必要とされる人材やグローバリゼーションについて考えていく。これによって、視野を広げることと異文化に対する理解を持つことを目標とする。		
授業概要	現代社会において、全員が同じ発想と内容を持つことは様々な変化に対する脆弱性が高くなると言える。また、これからの時代、従来の延長線や一つの専門領域だけで、社会課題の解決や新しい価値の創造は困難であるとも言える。本講義では、多様な価値を理解し、多様な対応ができることを目指している。そのため、本講義では知識を学ぶだけではなく、共に考えたり、経験をすることによって、様々な背景や価値観を持つ重要性や多面的な視野を養う。また、実例なども取り上げながら、多様性の理解やその必要性について学ぶ。本講義はグローバル人材海外演習の予習の要素も含むが、内容は独立しており、グローバル人材海外演習に参加しない学生も履修可能である。なお、本講義は集中講義（不定期開講・オムニバス）であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs：4, 9, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス・異文化理解とは</li> <li>② タイの基礎知識</li> <li>③ 日本との違いや難しさ</li> <li>④ 時代や社会の変化を改めて知る</li> <li>⑤ 異文化理解を考える（1）事例紹介</li> <li>⑥ 異文化理解を考える（2）プレゼン</li> <li>⑦ 異文化理解を考える（3）まとめ</li> <li>⑧ これからの人材に求められるものとは</li> </ol>		
予復習等	【予習】 ニュースに関心を持ち、未知のキーワードや内容を調べる。 【復習】 講義で取り扱った話題について自分で調べ、質疑応答や発表の準備をする。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし。ただし、1年前期に開講される「グローバリゼーション論」（国際コミュニケーション学科、他学科専門科目）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		

科目名	グローバル人材海外演習 Global Human Resource Overseas Training	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	演習
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これからの時代は、欧米中心の異文化理解ではなく、アジアやアフリカなどを含めた地球規模での異文化理解が必要になってくる。一方で、価値観も日本とは異なる面もあるため、想定外のことも多々生じる。そのため、「想定外のことが起こる」と言う柔軟性も身につける必要がある。そこで、本演習では、各自が設定したテーマを主軸にししながら、風土や民族、社会状況など、日本とは異なる文化や価値観に接するとともに、文化や習慣が異なる現地の学生と活動し、日本から世界を、世界から日本を捉える視野を持つ素地を作るとともに、これからのグローバル社会に対応できる柔軟性を養うことを目的とする。		
授業概要	春季休業中に、約2週間タイでの海外演習を行う。使用言語は、基本的には日本語（タイ人講師の講義など、一部英語の可能性あり）。海外演習では、事前に決めた各自のテーマに沿った簡単な調査を行う。事前研修では、各自の海外演習中のテーマの検討や、事前調査を行う。詳細については、オリエンテーションで説明する。 海外演習は、岐阜に本社を置く日系企業を中心に、現地での勤務状況や必要とされる能力について話を聞いたり、工場見学や文化施設（世界遺産や博物館など）の見学を行ったり、タイの文化（伝統文化、食文化、芸術など）や歴史を学ぶ予定である。また、現地を散策し、各自のテーマに沿って調べた内容を日本語でまとめ、提出する。 【SDGs：4, 8, 10, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 出発前に、オリエンテーションおよび、事前研修を行う。</li> <li>② 事前：注意事項の説明や各自の海外演習中のテーマの検討などを行う。</li> <li>③ 海外研修（タイ・バンコクなど）</li> <li>④ 事後：課題提出</li> </ol>		
予復習等	オリエンテーションで説明する内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。		
評価方法	研修での活動などへの参加態度 50%、発表 50%		
履修条件	履修条件はないが、1年後期に開講される「異文化間能力と社会の変化」（データ駆動科学教育研究センター、全学科対象）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	オリエンテーションにて指示する。		